

【 概 要 】

平成22年度 民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】（第2回）

1. 調査の概要

調査対象期間(平成22年7月～平成22年10月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(10/14～10/31)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1,045件。

2. 調査結果の主なポイント

(1) 「変動型」利用割合は47.3%に増加

- ・「変動型」の利用割合は、今回の調査対象期間(平成22年7月から平成22年10月)を通しての割合が47.3%(前回調査:45.6%)に増加している。
「固定期間選択型」は、今回の調査対象期間を通しての割合が28.9%(前回調査:32.8%)と減少
「全期間固定型」は、今回の調査対象期間を通しての利用割合は23.8%(前回調査:21.6%)に増加している。 <p2>
- ・年齢別にみると、30歳代、40歳代で「変動型」利用割合は、増加している。 <p5>
- ・世帯年収別にみると、「変動型」利用割合は1000万円以下の各層では40%台であるのに対し、1000万円を超える各層では60%前後に高まる。一方、「全期間固定型」のうちフラット35の利用割合は、1000万円以下の各層では17%前後の水準にあり、1000万円を超える各層ではこの率が低下している。 <p6>
- ・今後1年間の金利見通しについては、「少し上昇するが、それほど気にするほどではない」が減少し、「ほとんど変わらない」が増加した。「全期間固定型」利用者では「現状よりも上昇する」が増加している。 <p8>

(2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が68.3%と圧倒的に多い。次いで、「繰上返済手数料が安かったこと」、「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」の順となっている。 <p13>